第12回 関西大学FDフォーラム・大学教育再生加速プログラム採択 記念シンポジウム／交渉学ワークショップを開催します。

本事業の一環として、以下の行事を開催する運びとなりましたので、ご案内申し上げます。
参加費は無料です（情報交換会は除く）。多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

■お申込み方法
E-mail: ap-info@ml.kandai.jp にご連絡ください。
当日受付も可能です。

◆第12回関西大学FDフォーラム／大学教育再生加速プログラム採択 記念シンポジウム
「21世紀を生き抜く考動人〈Lifelong Active Learner〉を育成するために～ 未来を切り開く交渉学 ～
【日時】2015年2月21日（土）10：00～12：30
【場所】関西大学 千里山キャンパス　第2学舎 2号館 C303教室
【講演1】隅田 浩司 氏
（東京富士大学 経営学部経営学科 教授 他）
交渉学への誘（いざな）い
－交渉学の展開とグローバル人材育成における交渉学教育
【講演2】一色 正彦 氏
（金沢工業大学 大学院知的創造システム専攻 客員教授 他）
交渉学教育の実践例
－日本人向け教育プログラム開発と大学・企業の実践例

◆交渉学ワークショップ－ 社会人と学生の交流ワーク －
【日時】2015年2月21日（土）13：30～18：00
【場所】関西大学 千里山キャンパス　第2学舎 2号館 C302教室
【講師】一色 正彦 氏、隅田 浩司 氏
【 社会人TA（ティーチングアシスタント）リーダー】
松木 俊明 氏（アーカス総合法律事務所、弁護士、関西大学OB）
【 社会人TA】
表 武史（パナソニックソリューションテクノロジー株式会社、関西大学OB）、塩川 信明（ニッタ株式会社、関西大学非常勤講師）、白鹿 剛（椿特許事務所、弁理士）、田上 正範（合同会社IT教育研究所、関西大学非常勤講師・研究員）、竹本 和広（たかおIPワークス、関西大学研究員）、田邉 愛（堂島法律事務所、弁護士）、元山 健（パナソニック株式会社、関西大学OB）、山本 建（ 毎日新聞グループホールディングス）、吉岡 亜紀子（赤岡特許事務所、弁理士）、住宅系／化学系／メディア系の企業所属者 ほか　※50音順、敬称略

ルーブリック活用協力のお願い

この度、平成26年度文部科学省大学教育再生加速プログラム（AP）に本学の取組が採択されたことから、教育推進部ではさらなる教育力の向上を目指し、ルーブリックと呼ばれる評価方法の開発と普及を推進します。ルーブリックとは、学習成果のパフォーマンスレベルの目安を数段階に分けて記述して、学習の達成度を判断する基準を示すものです。これまでの評価法はいわゆる知識を測るテストによるものが主流を占めていましたが、パフォーマンス系（思考・判断、スキルなど）の評価は難しいのが課題とされてきました。あらかじめ教員がルーブリックによる評価軸を示しておき、「何が評価されることがらなのか」についての情報を学生に提供することにより、学生が授業の目的を的確に把握し、そこに向かって主体的に学習に取り組むねらいもあります。実際に、ルーブリックを用いた授業においてアンケートを実施しましたところ、「今何ができていてできていないかが一目で分かり、改善するのに役立った」、「これまでやってきた授業の全体像を把握することができた」、「何が求められるのかを考えることができる良い機会だった」等の声が学生から聞かれました。本学でも共通教養教育や初年次教育、専門演習やゼミ等でルーブリックを導入するケースが着々と増えて参りました。
ご興味のある教職員の方々におかれましては、
教育開発支援センター
（y-yamada@kansai-u.ac.jp 内線:3801）
まで是非ご一報ください。

事務局より

平成26年9月に「21世紀を生き抜く考動人〈Lifelong Active Learner〉の育成」を目的とした「大学教育再生加速プログラム（以下「AP」という。）」の採択が決まった。

本事業のテーマⅠ（アクティブ・ラーニング）では、交渉学・クリティカルシンキングに関する科目の開設、テーマⅡ（学修成果の可視化）では、考動力を測定、検証するためにコモンルーブリックの開発・検証・改善をおこなう。APプロジェクト委員会のもとにテーマⅠ、Ⅱのそれぞれに対応する「The　DOTS部会」と「教育・学修成果部会」の2つの部会を設置した。

それぞれの部会で仕事を進め、月に2回、テーマⅠとテーマⅡの合同部会を開催し、進捗報告を行っている。

2つの部会は、教育推進部教員4名、特任教員2名、職員4名で構成している。（平成27年1月現在）

APの取組が始まったことで、教員と同じ目的を持ち、より良い事業を完成させるため意見交換を行い、たまには冗談も言い合いながら教員と職員の絆が深まっていくのが感じられる。また、関係もより親密になっていく。まさに「教職協働」の縮図ではないだろうか。

今後はAP（Acceleration Program）と称するだけに、忙しさも「加速」していくだろう。しかし、その忙しさを忘れさせてしまうくらい教員と職員の関係が良好であり、素晴らしい組織となっている。

私自身はテーマⅠを主に担当しており、現在、2月21日に開催するAP採択記念シンポジウム＆交渉学ワークショップの準備を進めている。

このシンポジウムも教職協働により、是非豪壮なものにしたい。

このメンバーなら必ずAPの事業を成功できる、と私自身期待を抱いてやまない。

乞うご期待！！AP万歳！！教育開発支援センター万歳！！　（小形 一平）

KANSAI UNIVERSITY
関西大学 教育開発支援センター Kansai University Center for Teaching and Learning
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35　TEL: 06-6368-1513　FAX: 06-6368-1514
E-mail: ap-info@ml.kandai.jp
教育開発支援センター　http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html
AP取組Webサイト　http://www.kansai-u.ac.jp/ap/index.html
発行日／2015年2月　編集・発行／関西大学 教育開発支援センター

KANSAI UNIVERSITY
関西大学 教育開発支援センター
平成26年度 文部科学省「大学教育再生加速プログラム」採択

21世紀を生き抜く考動人 <Lifelong Active Learner>の育成

KU-AP NEWSLETTER

February 2015　vol. 1

大学教育再生加速プログラム

ニューズレターの創刊にあたって

取組担当者　教育推進部教授　三浦 真琴

文部科学省の平成26年度「大学教育再生加速プログラム」において、本学の取組が採択されました。この取組は、21世紀を生き抜く考動人<Lifelong Active Learner>の育成を目指すものです。

本事業の目的は、生涯に亘って創造的な思考と責任ある行動を実践し続ける考動人<Lifelong Active Learner>を養成することです。これまでは主として初年次教育においてPBL型や学生参画型の授業科目を中心にアクティブ・ラーニングを推進してきました。また、キャリア教育においては自己認識（Self Awareness）や自己変革の機会認識（Opportunity Awareness）など、キャリア管理力の基礎を修得するためのコンテンツとインターンシップの機会を提供してきました。

今後、社会からの要請にさらに応えていくためには、「特定の課題に取り組むチームワーク体験」「実社会とのつながりを体感できる教育」等、教育の内容や方法の工夫を常に図っていく必要があります。また、キャリア管理能力についてはDOTSモデルに示される意思決定学習（Decision Learning）や環境適応学習（Transition Learning）の機会を提供し、これをいっそう充実させていくことが必要です。

本事業では以下の取組を中心に行います。第一に、初年次教育と専門教育（ゼミ等）とを有機的に接続する拠点をつくるために、考動力の成長・確認・再生を可能にする場としてのプラットフォームを構築します。第二に、考動力を評価するための指標を開発し、学修行動・到達度調査等により得られた学修成果を検証し、教育改善・学修支援に反映させます。

本事業の推進、発展のためには、なにより教員・職員・学生の皆様のご協力が必要です。ご協力を賜るためには、本事業の進捗状況と今後の展開ならびに課題などをタイムリーにお知らせすることが肝要だと考えています。このニューズレターを皆様との「架け橋」にしようと考え、作成いたしました。ご愛読いただくとともに、お気づきになった点、ご要望など、お寄せ頂きますようお願い申し上げます。

部会からの報告／The DOTS部会

「The DOTS部会」では、考動力育成のための正課及び正課外プログラムを検討します。
具体的には、①交渉学科目やクリティカルシンキング科目の開設及び運営、②交渉学ワークショップの企画・実施、③アクティブ・ラーニング型授業を行う教員の育成（セミナー・ワークショップの実施、教材開発など）を中心に行います。

熊本学園大学で交渉学ワークショップを開催しました

12月12日･13日、熊本学園大学において、教育推進部の三浦真琴教授、山本敏幸教授、田上正範研究員とLA（ラーニング･アシスタント）の学生が、「熊本学園大学リーガルエコノミクス学科秋季講座／交渉学～社会人と学生の交渉型ワークショップ～」に参加しました。

このワークショップは、交渉学･クリティカルシンキングを通じ、学生の「考動力」形成を目的とした取り組みです。参加した両大学の学生と社会人約50人はグループに分かれ、教材を用いてディスカッション、プレゼンテーションを実施。プログラムの進行はLAの学生が務めました。参加した学生にとって、事業における学生リーダーとして必要なスキルを学ぶ研修となりました。
以下、詳細をご報告します。

部会からの報告／教育･学修成果部会（TLA部会）

「教育・学修成果部会（TLA部会）」では、学修成果の可視化に向けた評価指標の開発や間接調査・直接調査を検討します。
具体的には、①学修行動・到達度調査の項目検討・実施・分析、②コモンルーブリック開発及び開発に向けた調査、③学修コンシェルジュ育成のためのSD研修を中心に行います。

IR勉強会を開催しました

日時：11月12日（水）17：30～19：00
場所：第2学舎2号館C304教室

11月12日、関西大学千里山キャンパスにおいて、IR勉強会（第9回日常的FD懇話会の枠組）を開催しました。今回の勉強会は、「教学IRにおける先進大学の事例」と題し、先進的に教学IRに取り組む2大学（東北大学・関西国際大学）に事例をご紹介頂く場を設けました。

串本　剛氏（東北大学）は「東北大学におけるIRの取り組み」というタイトルでご講演いただきました。東北大学に設置された教育評価分析センターの概要や具体的な事業内容についてご説明いただくとともに、実際に取り組まれた学務データの情報化に関して、全学的な調査から見えた登録単位数や成績評価等に関する問題点を丁寧にご説明いただきました。学生調査と学務情報を関連させた分析の深化を目指す姿勢は大変刺激的でした。

藤木　清氏（関西国際大学）は「学生支援型IRの事例」というタイトルでご講演いただきました。学生支援型IRとは、大学もしくは学部学科が目標として掲げる学修成果を、学生が（主体的に）得られるように支援するためのデータ収集・分析を目的とした活動です。

経験知だけでなく、データによる裏付け（情報の共有）を行うことが、教職員の職歴を問わない同質の学生支援を可能にし、本当に学生に合ったIRが構築できるというお話は大変説得力がありました。

本学でも今回の勉強会をきっかけに、教学上の計画立案や意思決定等に資するデータを組織的に収集・分析・活用する活動を積極的に推進していきます。

（教育推進部　森　朋子）

新任教員紹介

山田 嘉徳

（教育推進部　特任助教）

大学という場で日々営まれる教育の成果が、緊要の事柄として強いて問われる昨今です。多様な学生が集い、学ぶ場で、何がどう学ばれたのかについての吟味が、求められているのだと認識しています。本事業の一つの大きなミッションは、教育内容を充実させることにもあるわけですが、その基礎にはまず、学生たちが当たり前にして学ぶ場の、より良い教えー学びのあり方を探る自発的な問いがあるのだと捉えています。本事業の取り組みをもって、少しでも豊かな学びが発展していくよう、微力ながら力添えさせていただく所存です。関連する部署、教職員の方々に適宜協力を仰ぎながら、精一杯、頑張りたく思っております。よろしくお願い致します。

原田 健太郎

（教育推進部　特任助教）

高校生の半分が大学に進学する中で、大学とは大変馴染みのあるものとなりました。それと並行して大学生が多様化していく中で、大学生が何を考え、何を必要としているかが分かりにくくなりました。同様のことが関西大学の中でも生じていると思います。関西大学としては、多様化した学生に対応していくために、学生に関する基礎的な事実を把握していくことが求められます。私の主な課題は、アンケート調査を始めとする各種調査を通して、関大生についての基礎的な事実を明らかにしていくことです。

皆様には各種調査への協力をお願いすることになるかと思いますが、それに見合ったものを提供できるように努めて参りたいと考えております。